

27年度福祉サービス第三者評価 本人（園児）調査結果報告書

横浜みなとみらい保育園

(株)R-CORPORATION

*調査日程	観察調査	2015年11月19日・20日
	本人調査	2015年11月20日
*保育観察	<p>調査員3名で全クラスの視察、観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、食事(1日目)を園児と一緒にいき、保育士、園児の様子観察を行いました。前回、すくすく保育園に調査訪問の際、芋ほり体験にみなとみらい保育園の保育士と子どもたちが参加し、収穫を楽しみながら芋ほりを行いました。系列4園では同様の交流(行き来)を行っており、都心の子どもが自然に交わる経験をするには非常に良いことであり、他園に公共交通機関を使って訪問することは子どもの社会性を養う上で非常に良い取り組みだと感じました。調査訪問日は、散歩に同行し、高島中央公園に行きました。みなとみらい21地区にある歩行者ルートの中央に位置し、周辺環境は全て超高層ビルでありながらも四季の変化を告げる樹木や芝生広場があり、都心のオアシス空間になっており、遊具も設けられ、保育士が見守る中、視界が高く広がる芝生の広場で子どもたちはのびのびと遊んでいました。</p>	
*利用者本人調査の方法	<p>4歳児、5歳児対象に園で選定された、4歳児5名、5歳児5名を2回に分けて各30分、質問6項目のインタビューを実施し、子ども一人一人の意見を聞き、集計・分析し、子どもの姿を通して園生活、保育士との関わり等を確認しました。また、大きく項目を分け、遊び中心とした保育園での生活、食育を通じた子どもの成長と家庭との連携、そして保育士を中心とした社会生活の面について考察しました。</p>	
*属性	<p>4歳児：男児2名・女児3名 / 5歳児：男児2名・女児3名</p>	

利用者（園児）本人調査結果

1. 【保育園での生活】

横浜みなとみらい保育園は、横浜駅から徒歩5分の利便性が良いところに位置し、周辺住宅は超高層住宅が多く、保護者の勤務形態は比較的東京方面への出勤が多く、園での登園時間は非常に早く、お迎えは比較的遅い時間帯が多いことも特徴です。子どもたちへのインタビューで「好きな遊びは何ですか?」と質問すると、4歳児では「おままごと」、「レゴ」、「お絵描き」、「パズル」などが挙がり、5歳児では「制作」、「おままごと」、「トランプのスピード」という、高度な遊びの答えが返ってきましたが、外遊びも好きなようです。

## 2. 【食育に関する保育】

園では食育に力を入れて1歳児から栽培を行い、食への興味・関心につなげています。5歳児は稲の栽培を行い、屋上のプランターでも野菜を栽培しています。系列園との交流を兼ねて芋ほりの体験も行い、畑での植え付けや収穫体験を行っています。子どもたちで収穫した野菜等は給食で食べ、家庭では嫌いでも、園では何でも食べるという声も聞かれました。子どもたちに「好きな食べ物は？」と聞いてみると、4歳児では、「グラタン」、「チョコレートケーキ」、「お肉」、「ハンバーグ」、「お寿司」、「白菜」など和洋食の子どもが好むメニューが挙がりました。5歳児では、「野菜炒め」、「ブリ大根」、「オムライス」、「カレー」、果物では「りんご」、「蜜柑」、「オレンジ」、「柿」などが挙がり、手の込んだメニューや味に肥えていると思うような意見が聞かれました。中には、唐辛子、緑ピーマン、トマトが苦手と話してくれる子どももいました。

## 3. 【先生を中心とした社会生活】

社会生活では、お散歩で行き交う方々や他園の子どもなどと挨拶を交わしていますが、道中は、街の中、商業地を通り、商店など特定のお店の人は顔見知りのようですが、近所の人歩いているだけではありませんが、それでも子どもたちは行き交う人に元気に挨拶をしています。

「交流」という面では、系列4園との定期的な交流を大切に、公共交通機関を利用して出かけることで幅広い社会性を育てています。保育士とのコミュニケーションでは、トイレに行くとき「先生（保育士）には言ってから行く」との答えが全員から返ってきました。ケガなどでは、転んだり、ぶついたりなどのケガの時も保育士に伝え、処置をしてもらい、絆創膏を貼ってもらっている様子が聞きました。保育士について聞くと、「先生はやさしい」、「怖くない」などの意見が多く、子どもたちは保育士が好きようです。但し、自分が悪いことをして、叱られる時は怖いと話してくれる子どももいました。子どもは、「ごめんなさい」と言える時と言えない時があるようで、先生（保育士）から注意されていることも会話の中で教えてくれました。園長先生については、「朝、登園の時に話す」、「園長先生は好き」、「優しい」、「見守ってくれる」などの他、「梅ジュースを園長先生と一緒に作ったの」と、楽しそうにエピソードを話してくる子どももいました。園長先生はいつも朝、玄関に出ているようで、子どもたちは園長先生に親しみをもち、優しい園長先生が好きな様子が聞きました。

子どもたちは、保育士という大人を通じて、社会の大人、他人に対するルール、人・ものに対する「思いやり」を学び、保育士も子どもたちを受け止め、生活していることが確認できました。